

応用生物科学部平成 18 年度後学期学生による授業評価の分析結果

平成 19 年 5 月 15 日
自己点検評価委員会
委員長 柵木利昭

応用生物科学部自己点検評価委員会では、学部教育の更なる改善のため学生による授業評価を実施しました。その評価の分析結果を報告いたします。

今後、これらの評価をもとに、教員の授業内容の改善活動につなげ、アンケート内容や回答方法の見なおし、教育カリキュラムを充実し、教職員による授業改善活動を継続的に行っていく所存です。分析結果をお読みいただき、ご意見・ご要望がありましたら、学部までお寄せくだされば幸いです。

分析結果の概要

1. 回収率について

学部全体で対象学生 877 名中 659 名がアンケートに回答し、回答率は 75.14%であり 18 年度前学期の 882 名中 661 名 (74.9%) とほぼ同じであった。学部改組にともない履修科目のほとんど無い農学部生物資源生産学科、生物生産システム学科、生物資源利用学科の 4 年生の合計 168 名を除けば、回収率は 92.2%であり 18 年度前学期の 91.8%と同等であった(表 - 1)。これらの数字は 17 年度前学期の 82.3%の回収率に比べ 10 ポイント近く上昇した。17 年度からは講義最終日等の授業時間中にアンケートを配布し、その場で回収するなど回収方法を改善した結果、16 年度の学生自身がポストに投函する方法(16 年度後学期の回収率 32%)に比べ、高い回収率となったと考えられる。獣医学課程 2 年 84.9%から環境生態学コースの 100%までいずれの課程・コースも極めて高い回収率を示した。この高回収率は各課程長及び教学委員のご協力の賜物である。

表-1 授業評価アンケートの回収率(平成18年度後学期)

課程(学科)・コース	対象学生数	回収枚数	回収率	
	1年生	85	82	96.5%
食品生命科学課程	2年生	84	77	91.7%
	食品科学 3年生	48	41	85.4%
分子生命科学	3年生	41	35	85.4%
	1年生	81	74	96.7%
生産環境科学課程	2年生	90	82	91.1%
	応用植物科学 3年生	28	27	96.4%
	応用動物科学 3年生	25	23	92.0%
環境生態科学	3年生	42	42	100.0%
	1年生	30	29	96.7%
獣医学課程	2年生	33	28	84.9%
	3年生	30	32	93.8%
	4年生	31	31	96.8%
獣医学科	5年生	29	28	96.6%
	6年生	30	26	86.7%
合計	709	659	92.2%	

* 対象学生数：在籍学生から休学者等を除いた数

2. 評価科目、評価項目等について

評価の対象とした項目は16、17年度と全く同じもので①授業の目的・主題が明確で全体が体系付けられていましたか、②理解しやすくするために資料等に配慮・工夫されていたか、③話し方・板書の仕方は適切でしたか、④質問のしやすさ・予習・復習の指導は

適切でしたか、⑤教員が熱意を持っていると感じましたか、⑥授業の内容は興味あるものでしたか、の6項目である。それぞれの項目を1(劣)から5(優)まで5段階で評価した。

教養基礎科目 10 科目、専門科目 142 科目の合計 152 科目を調査対象とした。その内訳は 114 科目が講義、38 科目が実習、実験および演習である(合計すると 150 科目だが、あと 4 科目は?)。受講者の人数が 100 名を超える科目は僅か 2 科目(1.3%)で、99~50 名が 39 科目(25.7%)、49 名以下が 111 科目(73.0%)であり 1 科目あたり受講者の人数はほぼ適正と思われる。教養基礎科目のうち、化学Ⅱは2つの教室(79~87 名)に、生物学Ⅱは3つの教室(72~73 名)に分割し、それぞれ 100 名を超える大人数の受講者にならないよう配慮している。

3. 総合点の概要

全授業科目 152 科目の総合点(表-2)の平均は 3.61 であり、17 年度後学期の 3.67(118 科目)と同等である。総合点が 4 点以上の高い評価を受けた科目は 32 科目(21.1%)であり、17 年度後学期の 32 科目、27%に比べその割合が 6 ポイント減少した。3 点未満の低い評価を受けた科目は僅か 12 科目(7.9%)であり、17 年度後学期の 9 科目、8%と同等である。なお、108 科目、71.1%は 3 点台の評価を受け、17 年度後学期(77 科目、65%)に比べ 3 点台に集中する傾向が見られた(表-2、図-1,2,3)。

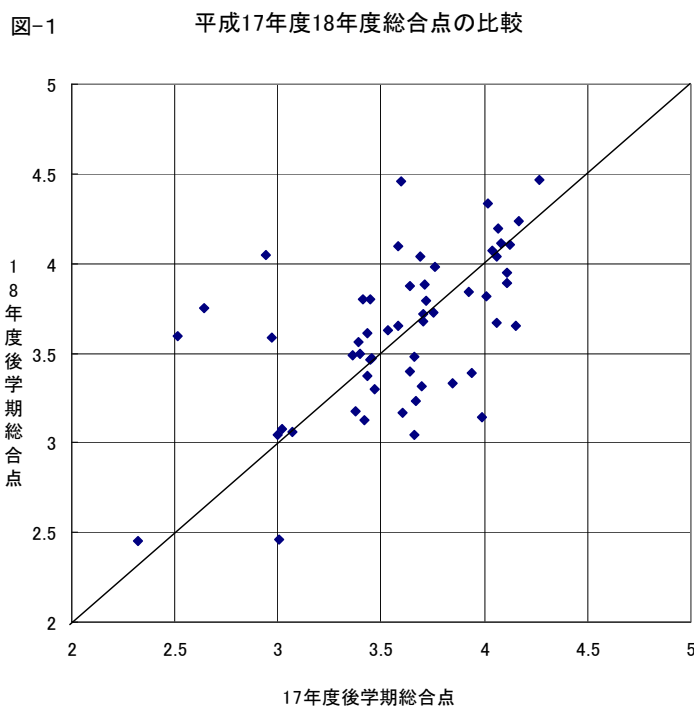
表-2. 講義と実習等の総合評価

総合点	3.00 未満	3.00~3.99	4.00 以上	計
講義	8 科目 (7.0%)	81 科目 (71.1%)	25 科目 (21.9%)	114 科目
実習等	4 (10.5)	27 (71.1)	7 (18.4)	38
合計	12 (7.9)	108 (71.1)	32 (21.1)	152

*実習等にはセミナー・実験・演習を含む

実習等が高い評価を受けていた 17 年度後学期（43%が 4 点以上）や 18 年度前学期（56%が 4 点以上）に比べ、18 年度後学期は半減し僅か 18.4%が 4 点以上の高い評価を受けたに過ぎない。応用生物学部獣医学課程を除く食品生命科学課程と生産環境科学課程の学生が年次進行で 3 年次生になり開講科目が大幅に 17 年度とは異なっているので一概に比べることはできないが、なぜ、実習等の評価が相対的に下がったのか検討し、改善につなげていく必要がある。

1 年生から 3 年生の科目について、17 年度と 18 年度の教養基礎科目・専門科目の総合点を比較した（図 - 1）。



56 科目中、34 科目（60.7%）は総合点が上昇したが、22 科目（39.3%）については低下し、全体としては改善傾向が見られた。個別の科目では、1 ポイント近く上昇した科目や低下し

た科目があり、受講開始時の受講生の学習レベルを開講時に充分把握したうえで、弛まな
い改善努力が必要であることが伺える。個別の科目では、生物形態学、食品化学Ⅱ、食品
衛生学、フィールド科学実習Ⅲ、土壌学、植物生態学、獣医生化学Ⅰ、獣医病理学実習の 8
科目は、2年連続で総合点が4点を上回っており、高い評価が安定して得られている。その
一方で、1科目ではあるが教養基礎科目で2年連続で総合点が3点を下回っていた（ちなみ
に前学期は5科目あった）。17年度総合点が3.5以上の比較的评价の高かった35科目中20
科目（55.6%）の18年度評価が前年度を割ったのに対し、17年度総合点が3.5点未満の比
較的评价の低かった21科目中14科目（67%）は18年度は点数が上昇し、そのうち8科目
は3.5点以上を示し総合点は大幅に改善された。

4. 学生からのコメントの概要について

教養基礎科目7科目（87.5%）に26項目、専門科目70科目（49.3%）に176項目の合
計77科目に202項目とさらに科目名の不記載の41項目を加え243項目のコメントが寄せ
られ、回答者1人当たり0.37ポイントである。18年度前学期の378項目（回答者1人当
り0.60ポイント）に比べるとかなり少なくなった。後学期はコメント数が減少する傾向は
17年度にも見られた。17年度前・後学期、18年度前学期と比べ全体的に厳しい個人攻撃
的な記載は減少した。

コメントの内容の主なものは授業内容に関するもの108件、授業スピードに関するもの
が12件及び授業編成に関するもの20件、パワーポイント、OHPやプリントなど資料提示
に関するもの34件、板書に関するものが20件、声が小さいなど話し方に関するもの17
件、遅刻など授業延長や補講に関するもの10件、複数教員による連携不足等に関するもの
10件などである。その中身はポジティブ（よく理解できた、要望等）なものよりネガティ
ブ（批判的、否定的等）なものが圧倒的に多い。

4点台の評価を受けた科目への学生からのコメントの実数は比較的少なく、その主なもの

はポジティブなものであった。比較的多数の学生からネガティブなコメントが寄せられた講義5科目を列挙すると、受講生32名中7名(21%)、60名中10名(18%)、88名中13名(15%)、88名中12名(13%)、135名中10名(7%)であり、授業内容、方法や資料などに関するもので批判的な意見が多かった。このいずれの科目も総合点は平均点(3.61)より低くその内3科目は2点台である。しかしながら、17年度後学期の受講生29名中21名(72%)、42名中15名(36%)のような1科目に集中してコメントが寄せられる傾向にはなかった。

授業評価そのものに関して、学部改組にともない学年進行で授業科目が大幅に変更されているので、一概に前年度とは比較はできないが、学生からの評価の高い講義、実習等を教員に公開し、各自の授業改善の参考にするのも1つの方法である。また、評価がどのように活かされているか示されておらず、実感としてはこのアンケートは意味がないと思うなど、自己点検委員会として、より綿密な対応が求められるコメントが、毎回寄せられており、授業評価にもとづく授業改善状況を受講生に伝わるようにする工夫や、受講生自身が改善されたことを実感できるように一部の講義で独自に行われている学期途中の中間授業評価(AIMS-Gifuのアンケート機能を利用)を、全科目に拡大するなどの対策を取ることが必要である。

図-2 平成18年度後期受講者数と総合評価

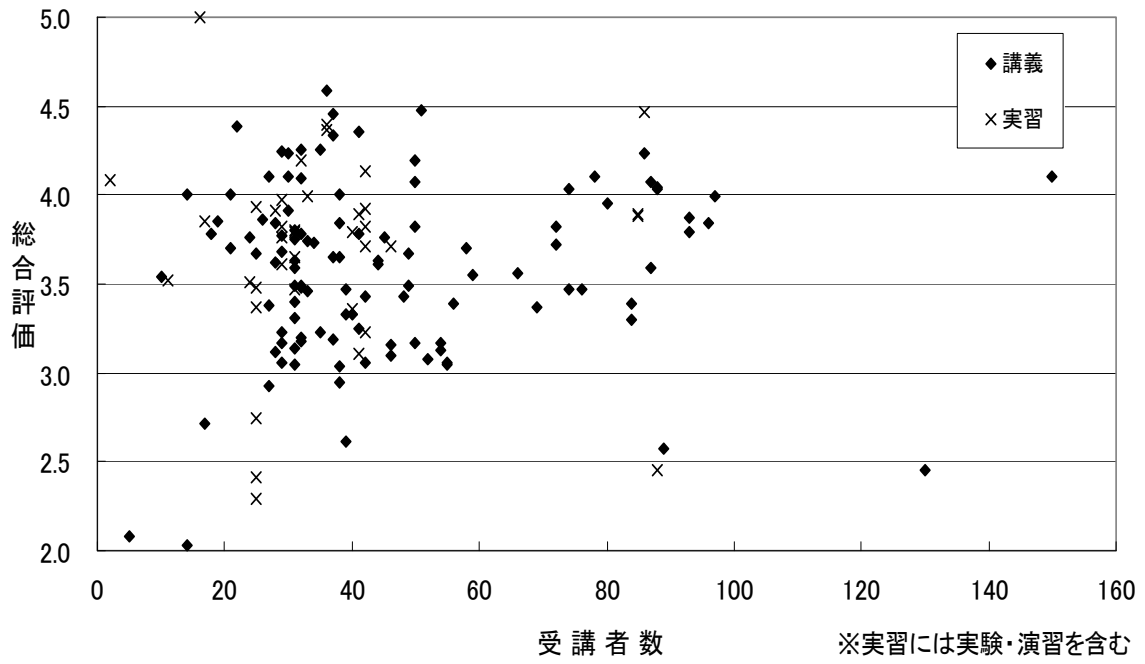
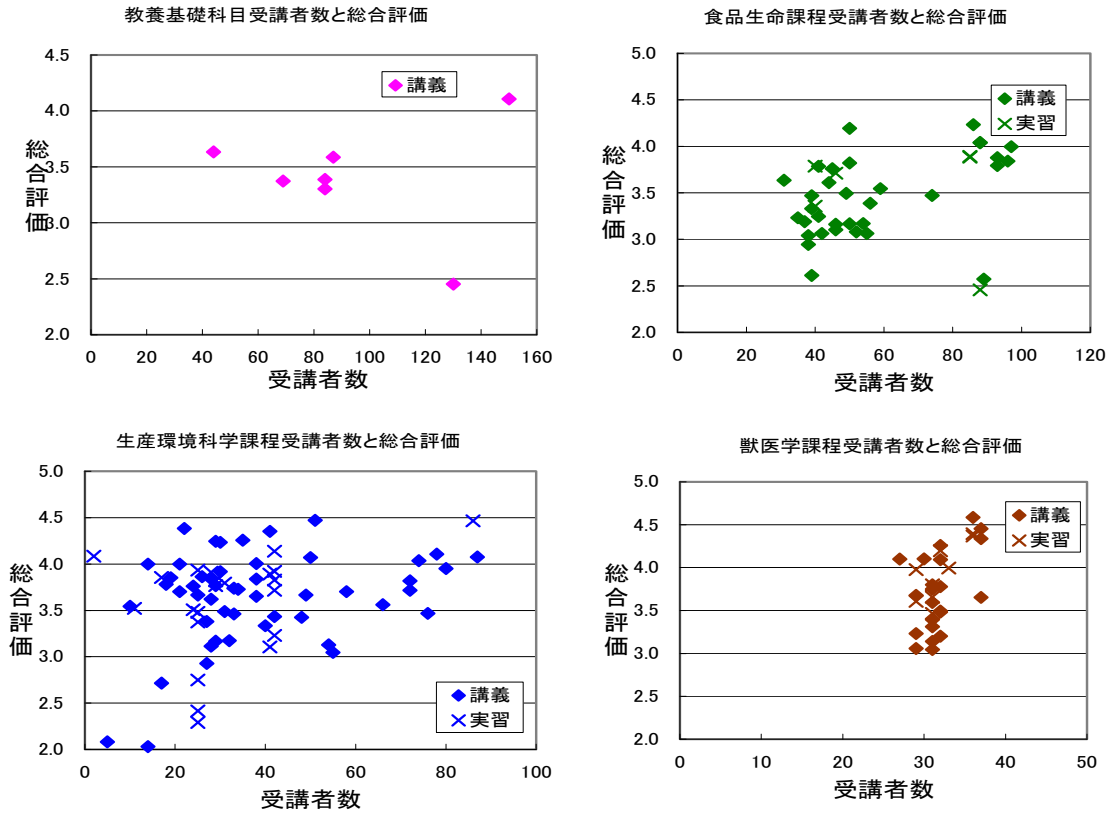


図-3 各課程受講者数と総合評価(平成18年度後学期)



※実習は実験・演習を含む